

令和2年第4回魚沼市議会定例会

一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
令和3年1月13日（1日目）			
1	1	星 直 樹	一問一答
2	2	浅 井 宏 昭	一問一答
3	13	関 矢 孝 夫	一問一答
4	9	佐 藤 敏 雄	一問一答
5	5	大 桃 聰	一問一答
6	15	本 田 篤	一括
7	8	志 田 貢	一括
8	10	大 平 栄 治	一問一答
令和3年1月15日（2日目）			
9	3	星 野 みゆき	一問一答
10	14	高 野 甲子雄	一問一答
11	11	渡 辺 一 美	一問一答
12	7	富 永 三千敏	一問一答
13	18	大 屋 角 政	一問一答
14	6	大 平 恭 児	一問一答
15	4	大 桃 俊 彦	一問一答

令和2年第4回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和3年1月13日（1日目）

1番（議席1番）星 直 樹 一問一答

1. 地域経済活性化と住みやすい地域づくりについて
 - (1) 観光課が主体的に担うべき領域と、観光協会の役割をどのように捉えているか。
 - (2) 南魚沼市にある施設に多くの若者が遊びに行っている。薬師スケートパークの施設整備を行ってはどうか。
2. 心の豊かさと郷土愛の醸成について
 - (1) 「子供たちが将来誇れる魚沼市」実現のため、中高生が利用しやすいように、現在19時である図書館の閉館時間を延長してはどうか。
 - (2) 「スキー場の適正な管理と充実」に向けた現段階のビジョンはあるか。
 - (3) 学校のグラウンドで行われるスポーツ少年団の活動について、有事の際に学校内にあるAEDを使えるよう徹底してはどうか。
3. 安心して暮らせる魚沼市を目指して
社会福祉協議会の事務所移転案について、白紙撤回と捉えてよいか。
4. 対話による開かれた市政運営について
 - (1) 適性に合った職員の配置やプロフェッショナルな職員育成を行うべきと考えるが、市長の見解を問う。
 - (2) 市民との対話集会を定期的で開催するか。行うとした場合、即答できない案件についての返答手段は考えているか。

2番（議席2番）浅 井 宏 昭 一問一答

1. 新市長の考える北部地区について
 - (1) 北部地区は特に高齢者が多く、運転免許返納者も多く出てくることから買い物難民の増加が予測される。高齢者の移動手段に対しての考えはあるか。
 - (2) 足腰が悪く、冬の雪片づけが負担となり、耐えられず雪の少ない土地に移住する市民が後を絶たない。克雪の面から高齢者に対して手厚い支援は考えているか。
 - (3) 寿和温泉について、これまでは内湯の改修が考えられていたが、市長はこれからの改修方針をどう考えるか。

【メモ】

2. 市民への情報発信方法について

防災無線が聞こえず大事な情報を得ることができない、かすかに聞こえるが何を話しているのか聞き取れないという市民からの声がとても多い。要因としては、風向き、スピーカーの設置位置、設置数、住宅の複層ガラス等様々あるが、この問題に対しての市長の見解を問う。

3番（議席13番）関 矢 孝 夫 一問一答

1. 市長の市政運営方針を問う

魚沼市長選挙立候補予定者討論会において行った公約の中で、以下の項目について具体的な施策など市長の見解を問う。

- (1) 議会とは互いに緊張感を持ちながら、丁寧な説明に努め、互いに意見を交わし、方向を見出す。
- (2) 魚沼で子供を安心して育てることができるよう教育や医療などの助成を拡充する。
- (3) 学校給食費の軽減や徴収の在り方なども見直す。
- (4) 建設事業者や除雪事業者の人材育成と後継者確保のために必要な支援を行う。
- (5) 福祉・介護・保育現場で働く人の待遇改善を図り、人材を確保した中で受入施設の増設を図る。
- (6) 時代のニーズに合った新しい形の行政組織の在り方を検討し、これに取り組む。
- (7) 総合計画、それに連なる観光振興計画や文化振興計画など各種計画について、市民の声を聞きながら速やかに見直し、策定に取り組む。

4番（議席9番）佐 藤 敏 雄 一問一答

1. 魚沼市の高齢化対策等について問う

魚沼市は合併当時の人口が44,457人、65歳以上の高齢者は11,854人で高齢化率が26.7%であったが、令和2年11月では人口35,209人、高齢者13,021人、高齢化率37.0%と、人口が20.8%減少する一方で高齢者は10.3%増加した。こうした状況下では、元気老人を育てることで医療費を抑え、行く行くはピンピンコロリを目指すべきと考える。

市長が就任の挨拶で「できない理由ではなく、どうしたら解決できるのかを考えてほしい」と述べていたことを踏まえ、以下について問う。

- (1) 魚沼市には、様々な技術や経験を積んだ元気老人がたくさんいる。こうした方々が、得意分野を生かし、社会参加をする方策の一つは、働く場所をつくることだと考える。シルバー人材センターについて、市として一層の事業所機能拡充と環境整備、更なるPRに努めるべきと考える。新たな仕事の掘り起こし、人材の登録・活用で、元気老人が生かされると思うがどうか。また、ボランティア活動の推進も重要である。地域クーポンや地域通貨などの仕組みを導入し、ボランティア参加者のモチベーションアップにつながる政策をすべきと考えるがどうか。
- (2) ゲートボールの推奨、ヤッコム等の運動施設の利用促進を図ってはどうか。また、ボウリング施設の設置要望については、4,607名の署名が市に提出されて、すでに3年以上が経過している。旧ボウリング場で使用していた用具は現在も大切に保存されており、設置場所が見つければすぐにでも設置ができると聞いている。旧井口小学校跡地が候補に挙がったが、指定避難所のため難しいと聞いた。避難所は湯之谷小・中学校で十分対応できると考えるが、どうしたらできるのか。市長の見解を問う。
- (3) 特別養護老人ホームの待機者対策について、平成31年4月に県が調査した待機者数は238名となっている。第7期の介護保険事業計画では、特養の50床増床を計画していたが、人材不足などが理由で計画は達成されていない。在宅で高齢者の世話をしている市民からは、働きに行けない、家庭が崩壊しそうだなどの相談を受け、入所依頼をし続けても順番が来ない状況とのことである。やむを得ず、高額の利用料を払って市外や県外の有料老人ホームなどに行っている方もたくさんいる。十日町市や小千谷市でも新しい施設の計画がなされている。どうしたらできるのか。介護人材や施設運営を地元だけに求めず、外国人材の活用例もあるように、柔軟な対策を求めたいと考える。市長の見解を問う。

5番（議席5番）大 桃 聰 一問一答

1. 平成30年第2回定例会で提案した福井県大野市で行われている芝桜事業について

平成30年第2回定例会の一般質問で、福井県大野市で行われている芝桜事業について提案したが、前市長は「議員ご提案の芝桜事業につきましては様々な分野への相乗効果や地域の活性

化につなげていけると考えている。今後地域の皆様を巻き込みながら検討していきたい」と答弁した。また平成30年第4回定例会でも「今後検討していきたい」と答弁している。

しかし平成31年度予算には農林課から予算要求があったにもかかわらず、「大桃の提案は駄目だ」と認めなかったという。新市長はこの芝桜事業をどのように考えるか。

2. 監査委員及び監査制度について

(1) 平成29年第3回定例会の一般質問でも行ったが、新市長は当市の監査制度は十分に機能していると考えるか。

(2) 現在の監査委員は市民の付託に応えるような適正な監査をしていないと考える。辞職しなければ、罷免の手続きをとるか。

(3) 外部監査制度の導入についてどのように考えるか。

3. 公民館や避難所の非常用電源について

以前の一般質問でも、避難所が電源喪失にあった場合の対策として、ガソリンではなく、軽油及びLPGを使った発電機を配備しなくてはならないと提案した。発電機の配備も必要だが、新庁舎で採用したソーラーパネルと蓄電池を使ったオフグリッドを設置すべきと考えるがどうか。

4. 斎場建設瑕疵担保請求（滞納繰越分）について

毎回質問しているが、一向に解消しないこの斎場瑕疵担保請求（滞納繰越分）2,709万円を来年度予算においてどうするか。

5. 物品の無償譲渡について

違法な手続きにより無償譲渡された物品についてどうするか。

6. 庁舎前道路の改良について

令和元年第2回定例会の一般質問で取り上げた、庁舎前道路、袖八大塚線及び上ノ原27号線の国道17号までの間の掘り割りの狭窄部、変形5差路改良についての現時点での進捗状況はどうか。

6番（議席15番）本田 篤 一括

1. 市役所・消防署などでのパワーハラスメントについて

(1) この1年パワハラを受けたという申出、相談はあったのか、実態を問う。

(2) ハラスメントが要因で職員が退職・休職した事例はあるか。また、退職・休職理由を再度調査してはどうか。

(3) 相談員は総務人事課の課長・係長であるが、十分な研修を受け、親身になって相談を受けているか。

(4) 所属長を含め行政組織全体が日々の業務を当たり前のことと思いき、職員に負担を強いる“見えないパワーハラスメント”を見逃してはいけない。過度な業務要求、過度な訓練など、常識的に考えられない職場環境はないか。ないと認識していても、改めて調査してはどうか。また、第三者の視点も取り入れてはどうか。

2. 学校給食は公が責任を持って

学校給食は公会計に組み入れることによって、学校の先生方の負担も減る。やはり市が責任を持って取り組むべきと考えるがどうか。また、給食費の無償化も検討しているか。

7番（議席8番）志田 貢 **一括**

1. 介護人材確保策について

(1) 介護人材の確保策は難しい課題である。結果的には、これまでの市の事業も十分ではなかったと考える。より予算を投入して策を考えるべきと思うがどうか。また、処遇改善手当などは考えているか。

(2) 事業所同士が連携し、人材出向・育成・募集などを行うことで、事業所自体も運営の効率化を図ることができると考える。高齢者福祉の場合は、これらを一括でまとめる連携推進団体の設置について、市が積極的に取り組む方策がよいと考えるがどうか。

8番（議席10番）大平 栄治 **一問一答**

1. 黒姫洞窟遺跡の活用について問う

(1) 魚沼市大白川地区にある黒姫洞窟遺跡で発掘された出土品は、日本国内で発見された数少ない縄文時代最古級の資料とされている。

これまで、教育委員会が実施してきた学術調査で収集した貴重な資料や、洞窟遺跡を含む遺構を保存するだけでなく、一般に広く公開することで新たな観光資源として活用してはどうか。市長の見解を問う。

(2) 現在、黒姫洞窟遺跡の出土品の一部は、目黒邸資料館に展示してあるが、大白川地区で現在活用されていない市有施設を常設展示施設として整備し、県立エコ・ミュージアムや浅草山荘、破間川ダムなどと一体とした教育資源、観光資源として整備してはどうか。

(3) 黒姫洞窟遺跡は、これまで数次にわたり調査が行われてきたが、旧入広瀬村当時の調査報告書がどうなっているのか分からない。貴重な資料が散逸しないよう図書館などに集積し、管理していただきたいがどうか。

(4) 黒姫洞窟遺跡は、県道から山の中に少し入ったところがあり、そこまでの登山道も整備されていない。小学生でも保護者や教師同伴で現地見学できるよう、登山道整備を求めたいがどうか。また、案内看板や遺跡保全のための対策も必要と考えるがどうか。

2. 介護老人福祉施設整備のための方策を問う

(1) 市では第7期介護保険事業計画において、介護施設利用者の増加を見込み、介護老人福祉施設50床の増床を決めていたが、民間事業者の受け手が見つからず、実施に至っていない。受け手が見つからない主な要因は、看護師や介護職従事者の不足が挙げられている。新たに50床の介護老人福祉施設を開設するためには専門職が何人必要なのか。

(2) 市内民間事業者の事業拡大が望めないのであれば、市立市営でやることはできないか。

(3) 旧堀之内病院療養病床を介護老人福祉施設に転用することは十分可能だと考える。また、隣接する旧堀之内病院において、魚沼市医療公社が堀之内医療センターとして無床の診療所を開設している。50床の介護老人福祉施設を魚沼市医療公社に任せることはできないか。

(4) どこが運営するにせよ、介護老人福祉施設開設には人材確保を含めた初期費用が必要となる。政策的医療交付金のような形で、市が新たに財政支援をする考えはあるか。

(5) 市はこれまでも介護人材確保のための支援策を実施してきたが、なかなか実績が向上していない。市長は次の一手にどのようなことを考えているか。

(6) 外国人の介護職導入について、市長の所見を問う。

3. コシヒカリ紅葉マラソンの今後について問う

(1) 一昨年度は熊出没のため、急遽開催を中止した。市は実質的な主催者であったにもかかわらず、市からの補助金は全額返還させ、参加者には参加賞を送っただけで、預かった参加料や企業からの広告費なども返還していない。このことについて市長の見解を問う。

(2) 今年度は、新型コロナウイルス感染症予防として開催を中止したが、他市で行われているマラソンや駅伝などは、沿道の応援やスタジアムの入場人数を削減する対応で、お

おむね実施されている。魚沼市は新型コロナウイルス感染症対策の検討もしないで安易に中止を決めたのではないかと、市長の見解を問う。

(3) 回を重ね、少しずつ参加者が増えてきたマラソン大会だが、さすがに2年続けて中止となると、次回の開催はスポンサー探しや参加者、ボランティア募集に相当な困難が予想される。市長は今後のマラソン大会について、どのように考えているか。

4. 寿和温泉について

寿和温泉については、地域の高齢者から使いやすい施設にしてほしいとの要望が出ている。2年前に改修工事を施した露天風呂棟に内湯を設置し、コンパクトで経費がかからないようにすべきと考える。地域との話し合い、今後の改修計画について、市長の見解を問う。

令和3年1月15日（2日目）

【メモ】

9番（議席3番）星野 みゆき **一問一答**

1. 介護施設の充実について
 - （1）旧堀之内病院跡地についてどのように考えているか。
 - （2）第8期介護保険事業計画期間の中で、特別養護老人ホーム定員50床の整備計画について、進捗状況をお知らせしながら進めるとのことであるが、その計画はどのようにする考えか。
2. 医師確保について
 - （1）最重要課題と考えるが、市長はどのように捉えているか。
 - （2）医師確保について方策は考えているか。
 - （3）新型コロナウイルス対応の激務により、職場環境を地方に考えている医師も出てきている今が医師確保のチャンスと捉えるがどうか。
3. 成人式の対応について
 - （1）令和2年度の成人式の現在の状況と今後の進め方についてはどうか。
 - （2）令和3年度の成人式についての考えはどうか。
 - （3）令和4年度以降の成人式の対象年齢の考えはどうか。

10番（議席14番）高野 甲子雄 **一問一答**

1. 小出インターの名称変更について
インターの名称変更については何度も取り上げてきたが、安曇野市は豊科インターから安曇野インターに名称を変え、観光誘客に成功したと聞く。新市長として早急に変更する考えはあるか。
2. 子育て支援事業について
 - （1）魚沼市でも就学前児童数が減少傾向にある一方、保育所への3歳未満児の入園児童が増えている。共働き、核家族が増え、家族保育では対応できないことの表れと考えられる。他方、市内各保育所は定員に満たない状況にある中、保育士確保難も言われている。これが魚沼市の子育て、保育の現状と捉えているが、市長の認識はどうか。
 - （2）子育ては国、自治体の責務であり、サービスとして提供するものではないと考えるが、市長の認識はどうか。
 - （3）保育士確保が難しい要因は賃金が低いこと、非正規職員という身分の不安定さにあると考えるが、市長の認識はどうか。

- (4) 現状の保育士の配置基準では火事や地震など非常時の避難体制には対応できないと考える。見直す考えはないか。
- (5) 私立保育所、幼稚園への市独自の支援策は取られているか。

3. 柏崎刈羽原発再稼働について

柏崎刈羽原発再稼働の動きが進んでいるようであるが、中越沖地震の際に大きな被害を受けた原発であり、豆腐の上の原発と言われてきた地盤の悪さが証明された原発である。魚沼市民の安心・安全の観点から再稼働は認められないと考えるが、市長の認識はどうか。

11番（議席11番）渡辺 一 美 一問一答

1. 第8期介護保険事業計画について

魚沼市は第7期の事業計画で、ようやく「おおむね30分以内に必要なサービスが提供できる」3圏域を設定し、地域包括支援センターを設置することとした。

第8期事業計画は、高齢者を地域で支えるために、3圏域の特性を活かしながら「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が一体的に提供される地域包括ケアシステムをつくり上げていく重要な期間である。そこで、次の点について質問する。

(1) 地域包括ケアセンターについて

地域包括支援センターは、様々な側面から、高齢者の生活上の困りごとに対応してくれる総合相談所のような存在である。魚沼市のように広大な面積の市が、おおむね30分以内で適切な支援につなげていくためには、3か所ではなく、5か所の支援センターが必要と考えるがどうか。また、支援体制の確立には、被保険者の情報が市と各支援センターとで共有されていることが重要であり、市担当者の交代やセンター内の担当の交替の際も継続的円滑に支援できるよう、市と各支援センターがパソコンから双方向でアクセスできるシステムを導入してはどうか。

また、地域包括支援センターは介護保険の適切な運営のために介護支援専門員の資質向上の役割も担うことになっているが、市の役割をどのように考えているか。

(2) 特別養護老人ホームの増床について

「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が一体的に提供される体制にはほど遠い状態である。「医療」が必要となり入院した後、魚沼市内の「住まい」に戻ることができず、住所地特例で他市・他県に行かざるを得ない人が後

を絶たない。待機者やこれからも増える要介護者に対応するには第7期で計画した50床でも足りず、「住まい」の位置づけである施設を増やす必要があると考える。第8期で「地域密着型介護老人福祉施設」を計画に上げてはどうか。また、住居費が高く入所できない低所得者に対する住居費の補助制度を設けてはどうか。

(3) 地域包括ケアシステムの周知について

魚沼市職員全員に、地域包括ケアシステムは各種計画と一体的に考える「まちづくり」の考え方に立っていることをしっかりと理解してもらい機会をつくることと、第8期では、地域包括支援センター職員の教育、資質向上、意識改革を行うことが介護福祉課の役割の最重要課題と考えるが市長の見解を問う。

12番（議席7番）富永三千敏 **一問一答**

1. 市長の思いについて

市長は選挙活動で思いと挑戦を訴えてきた。

- (1) 力強い地域経済の構築のため、国・県補助事業等の積極的な導入は、財源確保の意味からも重要である。そのための職員の研修と職員の専門配置を考えてはどうか。
- (2) 「魚沼の自然や食、歴史や文化を生かした観光振興による外貨の獲得を図り、友好都市や関係都市などと交流人口の拡大を行う」と言っていたが、観光による振興はどのような仕組みで取り組んでいくか、また交流人口の拡大はどうやって進めていくか問う。
- (3) 「財政健全化のために、公共施設の整理と再配置に取り組む」とある。現在二市一町で進めている新ごみ処理施設が候補地未確定のまま推移している。このままの体制で進めるのか、魚沼市独自で建設することを検討できないか、市長の大筋の考え方を問う。また、下水道の統合を進めているが、そのまま進めるのか。流域下水道化で集約するのではなく、現在の分散的な配置をある程度残す考えはないか。

13番（議席18番）大屋角政 **一問一答**

1. 原発事故対策について

新潟県は、世界有数の発電量を持つ柏崎刈羽原発が存在する。その反面、一旦事故を引き起こすと、計り知れない災害となる可能性がある。柏崎刈羽原発はUPZ圏内（半径30キロメートル圏内）を大きく超えて放射能汚染が広がる環境にあり、当然、

魚沼市も放射能汚染区域になってしまう。通常の放射線量は1時間当たり0.01マイクロシーベルトだが、その6,000倍もの放射線量になるというシミュレーションもある。これでは、他の自治体住民を受け入れるどころか、魚沼市民を優先して避難させなければならない。こうした原発事故で一番重要な安全に避難できる避難計画ができない限り、再稼働は認めてはいけないと考えるが、市長の見解を問う。

2. 冬期間の除雪支援について

数年間少雪が続いたが、今年は大雪となり、除雪体制も間に合わないような状況もある。除雪に携わるのは主に建設業者だが、除雪作業に関わる要望などは取り入れているか。また、オペレーターなどの人材不足を解消する考えはあるか見解を問う。

3. 農業問題について

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、農業にも影響が出ている。昨年も米の価格やユリ等の花卉の価格が引き下げられ、今年も農産物の価格が大暴落するおそれがあると言われている。米に限らず、農産物の価格補償などの支援を考えなければならない。市長の見解を問う。

14番（議席6番）大平 恭児 一問一答

1. スキー場問題について

- (1) 市民のスキー場を考える会が、スキー場存続のために、魚沼市に提出した嘆願署名1万8,344筆について、どのように受け止めているか。
- (2) スキー場完全民営化については、現実的には無理があると思う。その方針は変えるか。
- (3) 魚沼市スキー場再編計画は、今もホームページに掲載されているが、現在どのような位置づけとなっているのか。また、スキー場を含む観光やスポーツ、教育の面からも計画はつくるべきと考えるがどうか。
- (4) 索道設備や圧雪車などの老朽化が言われてきた。更新についてどのように考えていくか。

2. PCR検査体制について

魚沼市でもPCR検査が行えるようになったことは大いに評価できる。しかし検査数が非常に少ないのが現状であり、検査体制を今後拡充すべきと考える。

- (1) 今後検査体制を強化して、検査数を増やしていく考えはあるか。また、課題はどこにあると考えているか。

(2) クラスターになりやすい介護や福祉施設従事者への検査費用の補助を検討すべきと考えるがどうか。

3. 事業者・市民への支援について

新型コロナウイルスに係る経済支援で、事業者や市民へのさらなる負担軽減策は今後を考えると重要である。また、広く事業者が享受できる支援策を検討すべきと考え、以下に問う。

- (1) 経営継続支援事業の期間を延長する考えはあるか。対象者前年比50%以上の減収はハードルが高いと考えるが引き下げないか。また、支給額を引き上げる考えはないか。
- (2) 上下水道の使用料や税、保険料などの固定費への負担軽減策も検討すべきと考えるがどうか。
- (3) 市内で多数感染者が出てくる可能性もある。当事者、家族への支援策も検討すべきと考えるがどうか。
- (4) 今後、新型コロナウイルス感染拡大の状況の中で、市民に対して安心感を与える強いメッセージを発するべきと思うがどうか。

15番（議席4番）大 桃 俊 彦 一問一答

1. 高齢者肺炎球菌について

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種について、魚沼市のホームページには、対象年度においてのみ公費の助成が受けられることと、対象者の年齢、生年月日が掲載されている。しかし、公費の助成は1回のみということやワクチンの効果が5年程度であること、複数回の接種には副作用の恐れがあることなど理解していない市民が多いと感じる。

- (1) 9月の決算質疑では、今後検討し、市民に知らせるとしたが、今日までどのような検討がされているか。
- (2) 2回目の公費助成を市独自の対応で検討できないか。
- (3) 1回目の接種年齢を市民が検討した上で接種する方法は考えられないか。

2. 新型コロナウイルスと地域経済への対策について

魚沼市長選挙立候補予定者の討論会の内容について問う。

- (1) 新型コロナウイルスの抜本的対策は、国の指針によることになる。国からウイルス対策の考え方は示されているが、市として今後の感染状況を見た中で、イベントはどの程度の規模で実施するか、飲食店の営業はどうするのかといった具体的な指針を示す必要があるとしていたが、具体的な内容を問う。

- (2) 近隣自治体や県と連携を強化し、さらに医療機関や保健所のアドバイスを受け、市民の安全を図りつつ日常の暮らしを取り戻すとのことであつたが、抽象的な言い回しで内容が見えてこない。何をどうしたいということなのか問う。
- (3) 地域経済を取り戻す対策として、今までと違う市独自のもっと使いやすい制度を考えるとしているが、どのような制度や給付策を考えていくか。

【メモ】